

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男 a

男子 準々決勝

会場 三郷市総合体育館 コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名	
北陸高等学校	28	12	—	13	大阪体育大学浪商高等学校
		16	—	13	
		—	—	—	
		—	—	—	
		—	—	—	
		7mTC			

優勝候補同士の対決は、お互いに堅守が光る立ち上がり。浪商は7番泉本心のみドルで先制、20番泉本繁輝が1対1を突破し勢いに乗る。北陸も速いポジションチェンジからサイドを攻める。高い1-5DFを展開する北陸に対し、浪商はクロスプレーで左腕エース11番木村のみドルを演出。北陸も6番藤坂の1対1が華麗に決まり差を詰める。速攻では15番谷口の豪快なみドルも決まり、一気に追い上げムード。前半を12-13とされた北陸は、DFを入れ替え浪商のみドルを警戒するも、浪商5番松川にサイドを決められる。それでも終始冷静な北陸は、浪商に退場者が出た隙に猛反撃。浪商DFの出遅れを見逃さず、15番谷口がロングを立て続けに決め、ついに逆転に成功。その後は1点を争う攻防が続く。終盤で、浪商のみドルに対するシュートブロックが功を奏しピンチをしのいだ北陸は、スピードに乗って攻撃を展開。ミスの許されない緊迫した状況の中、強気な姿勢でシュートチャンスをものにした北陸が、2点差で振り切り勝利を手にした。

平成31年3月26日

記載者氏名 伊東 和矢

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男 b

男子 準々決勝

会場 三郷市総合体育館 コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名				
高岡向陵高等学校	<u>37</u>	[16	—	13]	29	熊本国府高等学校
			21	—	16			
			—					
			—					
			—					
			7mTC					

互いにノーシードから勝ち上がった高岡向陵と熊本国府の対戦は、高岡向陵7番七分のサイドシュートで先制。立ち上がり高岡向陵1番塚本と熊本国府1番濱崎両 GK の好セーブが続く。個人技で打開を試みる高岡向陵に対し、熊本国府はポストを絡めた攻めを見せる。熊本国府は粘り強く守るも退場者を出すなど苦しい時間が続き、徐々に高岡向陵のペース。タイムアウト後立て直し点差を縮める。前半終了間際に高岡向陵3番村藤のスカイプレーが決まり、高岡向陵が3点リードで前半を折り返す。

後半立ち上がり互いに譲らず緊迫した展開に。熊本国府は11番清水のサイドシュートなどで得点するも、2番金岡、5番中村、11番中島の勢いを止められず、点差を一気に離される。後半25分には、この試合最大の9点差まで広げる。メンバー交代後も最後まで勢いに乗った北信越代表富山県高岡向陵が九州代表熊本国府を下し、ベスト4進出を決めた。

高岡向陵は準決勝で、第1シードの同じく北信越代表福井県北陸と対戦する。

H31年 3月 27日

記載者氏名 青木 庸平

平成30年度 第42回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男 c

男子 準々決勝

会場 三郷市総合体育館 コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
県立氷見高等学校	<u>22</u>	[14 - 12 8 - 12 - - 7mTC]	<u>24</u>	県立不来方高等学校

準々決勝、氷見高校のスローオフで試合開始。氷見高校澤井久宜が先制点を決めるが、不来方高校もサイドシュートで反撃する。不来方高校藤澤陽己のカットインシュートで2点リードするが、氷見高校も多彩な攻撃で応戦し、お互い一步も引かない試合展開となった。不来方高校のミスが続き、氷見高校が速攻で連続得点を決め、リードを2点差に広げる。流れを変えたい不来方高校はタイムアウトを取るが、点差は縮まらず、前半は14対12と氷見高校のリードで終了した。

後半、お互い退場者が出るスタートとなるが、両チームとも流れは掴めず、一進一退の攻防が続く。氷見高校松坂俊翔のカットインが冴るも、不来方高校が落ち着いた試合運びを見せ、同点に追いつく。前半18分、不来方高校が堅いディフェンスからの速攻で得点を重ね、2点リードする。最後までこのリードを守り切った不来方高校が24対22で接戦を勝利した。

31年3月27日

記載者氏名 後藤 太暉

